

# 調査研究視察報告書

会派名 自民清風会  
代表者名 永田 寛 (印)  
視察者氏名 山崎憲伸 (印) 鈴木雅登 (印)

1	視察日	平成19年2月16日 (金)
2	視察先	綾部市民病院
3	視察項目	綾部市民病院の経営について 伸び続ける社会保障費の増大は国の財政的破綻を招く懸念がある。ここでいう社会保障費とは生活保護・年金・介護保険・医療保険の総称である。その中の特に医療費の問題についてであるが、国はこの国民的課題に対して医療費を含めた社会保障費全体の抑制を志向している。それを受けた診療報酬の改定により市民病院経営の赤字幅が大幅に膨らみ、自治体が病院を運営する能力を問われる深刻な事態となっている。しかし西三河医療圏において三次医療を担う岡崎市民病院の役割は大変大きく、病院経営の健全化に向けての真剣な取り組みを必要とする。その参考事例として自治体立優良病院として総務大臣賞を受賞した綾部市民病院を視察した。
4	視察項目の概要	受賞の理由は全国的に自治体病院の赤字体質が際立つ中でも黒字経営を続けている点である。ここで国の診療報酬改定のポイントは2つある。一つは以前は病院では診療と療養の二つの機能を有していた。しかし、介護保険の新設により病院の療養機能は介護施設が担うとして入院に関する診療報酬は厳しい改定となっている。二つには病院に通わない健康な体作り(健康奨励策)が奨励されるようになり、具体的には予防検査等の診療報酬が上がる改定ともなっている。この診療報酬改定に沿った病院経営をしていることが黒字経営の大きな要因と理解した。また、例えば、綾部市民病院では医師1名あたりの外来患者の診察件数が日当たり20件近くにも達するとのことであった。岡崎市民病院は10件程度とのことであるから、ここに大きな違いがある
5	所感等	「自治体病院は赤字が当たり前」として経営努力にまい進するかしないかといういわゆる熱意の部分が大きな要因の一つと考える。ところで岡崎市が抱える事業は病院経営のみではない。病院経営の努力が大方の理解を得られる程度までなければ、安易な税金投入は歯止めなき赤字体質の温床となり、将来の市経営にとっての重荷となりうる。従って健全な病院経営にまい進すべきである。

